

提出日：令和 3 年 2 月 24 日

所 属：獣医学部 獣医学科

氏 名：山田一孝 職位：教授

## I ティーチング・ポートフォリオ

### 1. 教育の責任（教育活動の範囲）

1. モデル・コア・カリキュラムに則った獣医放射線学教育の提供.
2. 国家試験に合格するための獣医放射線学教育の提供.
3. 獣医放射線学を構成する「放射線生物学」「放射線化学」「放射線物理学」「小動物画像診断学」「大動物画像診断学」の体系的な学問の教授.
4. 卒業して現場ですぐに役に立つノウハウを詰め込むことよりも、獣医放射線学という学問の理解を優先.

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医放射線学 (2020 年度 V2,V4 同時開講)	獣医学科	必	V2, V4	150 132
獣医放射線学実習	獣医学科	必	V5	149
小動物獣医総合臨床	獣医学科	必	V5	149
小動物臨床実習	獣医学科	必	V5	149
小動物病院実習	獣医学科	選	V6	6
先端獣医療	獣医学科	選	V6	20
産業動物獣医総合臨床	獣医学科	必	V5	149
産業動物臨床実習	獣医学科	必	V5	149
総合獣医学	獣医学科	必	V6	140
獣医放射線学特別演習 II	研究科獣医学専攻	必	DV2	1
獣医放射線学特別実験	研究科獣医学専攻	必	DV2	1

### 2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

<p>学部教育では、獣医放射線学を体系的に理解し、自然科学の中で獣医放射線学の役割を俯瞰的にとらえることのできる獣医師の育成を心がけている。</p> <p>研究室所属学生の卒業論文指導では、「自ら考えることのできる能力」と「日本語で適切な報告書を書くことのできる人材」の育成を心がけている。</p> <p>大学院教育では、修了後に自ら論文を執筆・投稿できる能力の養成を心がけている。</p>
<p>3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）</p>
<p>1. わかりやすい説明をするように心がけている。</p> <p>2. 学生からの質問に対応するよう心がけている。</p> <p>3. 国家試験では、獣医放射線学の設問に正解できる水準の教育を心がけている。</p>
<p><u>アクティブラーニングについての取組</u>          自ら学習する習慣が身につくように、調べ学習が必要な課題を課している。また、「詳しく知りたい人は」というスライドを示し、日本語の文献を紹介している。          新型コロナウイルスの影響で2020年はオンライン授業となった。しかし、このことで、これまで受け身であった学生の姿勢が能動的に変化したように感じる。</p>
<p><u>ICTの教育への活用</u>          学理を利用して実習レポートの提出と講評のフィードバックを実施している。</p>
<p>4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）</p>
<p><u>①教育（授業，実習）の創意工夫（A）</u>  <u>②学生の理解度の把握（A）</u>  <u>③学生の自学自習を促すための工夫（A）</u>  <u>④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A）</u>  <u>⑤双方向授業への工夫（A）</u>  <u>※A（十分実施している）B（実施しているが十分でない）C（うまく取り組めていない）</u></p> <p>上記を鑑みて現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。          オンライン授業に際して、学理のディスカッションを通じて質問に対応している。</p> <p><u>⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・獣医放射線学の過去問を分析し、講義スライドに反映させた。</li> <li>・総合獣医学の授業を担当した。</li> <li>・6年生の質問に対応した。</li> </ul>
<p>5. 学生授業評価</p>
<p><u>①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。</u>          学生から話すスピードが速いとの指摘があったので、ゆっくり説明することを心がけた。</p> <p><u>② ①の結果はどうでしたか。</u>          今年度は、話すスピードが速いとの指摘はなかった。</p> <p><u>③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。</u>          引き続き、ゆっくり話すことを心がける。</p>
<p>6. 学生の学修成果</p>
<p><u>① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。</u>          具体的にお示しできるものではありません。</p> <p><u>②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価</u></p>

大学院 2 年生近藤太郎氏が日本ウマ科学会優秀講演賞を受賞した。
7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況) FD 研修に積極的に参加し, 教育力向上を計った。
8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン) 短期的目標: 国家試験合格率向上。 長期目標: 国家試験合格率 100%。日本獣医生命科学大学, 日本大学に対して強い競争力を持ち, 偏差値の高い入学者を確保する。
9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ 日本ウマ科学会ホームページ ( <a href="http://jses.equinst.go.jp/contents/page.php?id=427">http://jses.equinst.go.jp/contents/page.php?id=427</a> )